

丸山正 黒物着

2019年 11月1日.金 — 11月5日.火

作家は全日在廊 OPEN 11:00 — 18:00 会期中無休



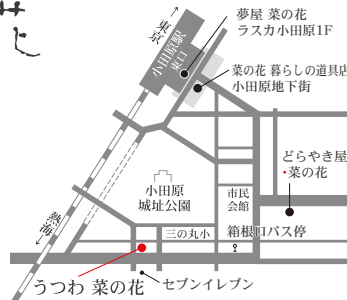
photo:Aya Tonosaki

- 11月3日(日祝) 14:00—14:40 うつわ菜の花にて丸山正さんの巻き付けパフォーマンスを行います。モデルは書家の華雪さんです。

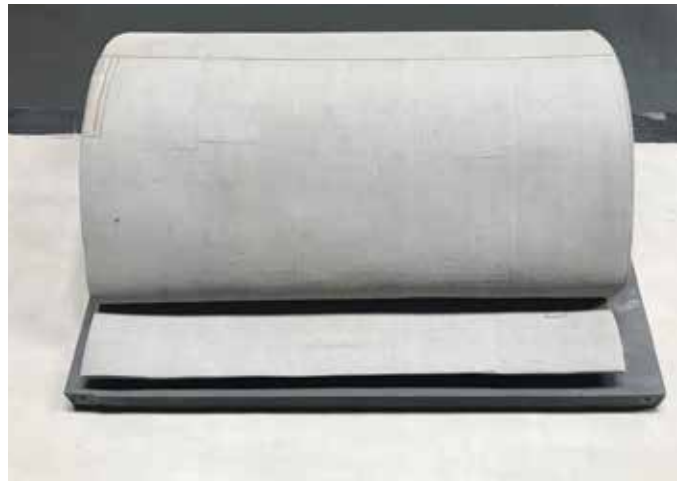
うつわ菜の花

小田原市南町1-3-12
電話 0465-24-7020

小田原駅東口より箱根方面へ
向かうバス利用
[箱根口]バス停下車徒歩2分
セブンイレブン向かい側



<次回企画展> 植松永次 うつわ菜の花
2019年 11月23日(土) — 12月1日(日)



- 丸山正さんは今度の1月で69才になります。

4年ほど動きがなかったもので、うつわ菜の花でやりませんかと声をかけたのが1年前。その時「病み上がりみたいに自信は全く無かったけれど1年あれば何とか...」と思っていたようだ。

今回の誘いがきっかけになって、1点、2点とようやく楽しんでやれるようになった。手をいごかしているうちに、楽しみみたいなものが生まれて来たという。

「帯は自分で染加工している。金属粉、灰、土を紬地に擦り込んでいる。本能に任せて、叩いたり、擦ったり、揉んだり、やりたい放題。子どもが泥んこになって泥遊びをしているのと同じ。動作そのものに快感を味わっている。自分のエキスが投入される気がする。信じられるのは本能。その後、雨ざらしにして、風化させて行く。創作意識も風化されていく。」

と言っています。

すごいところまできている。作れたことが嬉しくて、と言われると、こちらも嬉しくなる。

そんな帯9点、紬、後染め着尺8点が届きます。是非お出かけ下さい。

2019.10.1 ● 高橋 合一

- 丸山正プロフィール

丸山正は1951年大阪府に生まれる。大阪芸術大学にて油絵を学び、グラフィックデザイナーを経て、1985年に染織家としての道を歩み始め、東京を中心に各地で展覧会を開催。2000年に北青山にシヨ ツブ「Maru Factory」をオープン。同年秋のミラノでの個展では国内外の注目を集めた。作品は、クロ、グレー、コゲ茶などのシックな色合いを中心に、独自の色と素材感を追求している。赤城産の手紡ぎによる生紬糸を小干谷で織ったもの。着物は伊勢型師による型紙。江戸小紋師の卓越した職人の手仕事によって仕上げられている。帯には箔や顔料、灰などを重ねた布を、さらに削る、叩く、擦るなど、素材造りへの探究心は限らない。伝統技術に支えられながらも、彼の手で鍛え上げられた布達は、彼の「巻き付け」により人体にあてがわれることでその表情を変化させ、見る者を魅了してやまない。

